

# 新潟本社行動計画の取り組み状況について



2019年 6月 6日  
東京電力ホールディングス株式会社  
新潟本社

# 目次

1. 安全性向上の取り組み
2. 運営体制の構築の取り組み **update**
3. 防災支援の取り組み  
緊急時の初動体制 **update**
4. 地域貢献の取り組み  
地域行事への参加 **update**
5. 傾聴と対話の取り組み
  - ① コミュニケーションブース **update**
  - ② 全戸訪問
  - ③ 地域の皆さまへの説明会
  - ④ トークサロン **update**
  - ⑤ 発電所視察対応 **update**
  - ⑥ 広告 **update**

# 1. 安全性向上の取り組み

## 概要

- 「安全意識」「技術力」「対話力」を向上させるため、原子力安全改革プランを実行
- 新規制基準適合性審査（以下、審査）への真摯な対応
- 福島第一原子力発電所事故の反省を踏まえた安全対策の着実な実施  
※個別具体的な取り組み状況について、原子力安全改革プラン進捗報告にて定期的に報告

## 主な取り組み

### <事故を防ぐ>

- 福島第一原子力発電所事故の反省と教訓を踏まえた、自主的な安全対策を実施
- 綿密な断層調査による活動性評価及び保守的な基準地震動の策定
- 厳格な審査を通じた、更なる安全性向上と継続的な改善



### <止める（事故対応の技術的能力の向上）>

- 事故対応時に迅速・的確な意志決定が図られるよう、米国などの緊急時対応体制である、ICS（災害時現場指揮システム）の考え方を導入
- 過酷な状況を想定し、さまざまなシナリオによる訓練を継続的に実施し、技術的能力を向上



# 1. 安全性向上の取り組み

## 主な取り組み

### <冷やす>

- 電源喪失時も原子炉の冷却が可能となるよう、高圧代替注水設備の設置、消防車や大容量送水車の配備等、冷やす機能を多様化、多重化



### <放射性物質を閉じ込める・減らす>

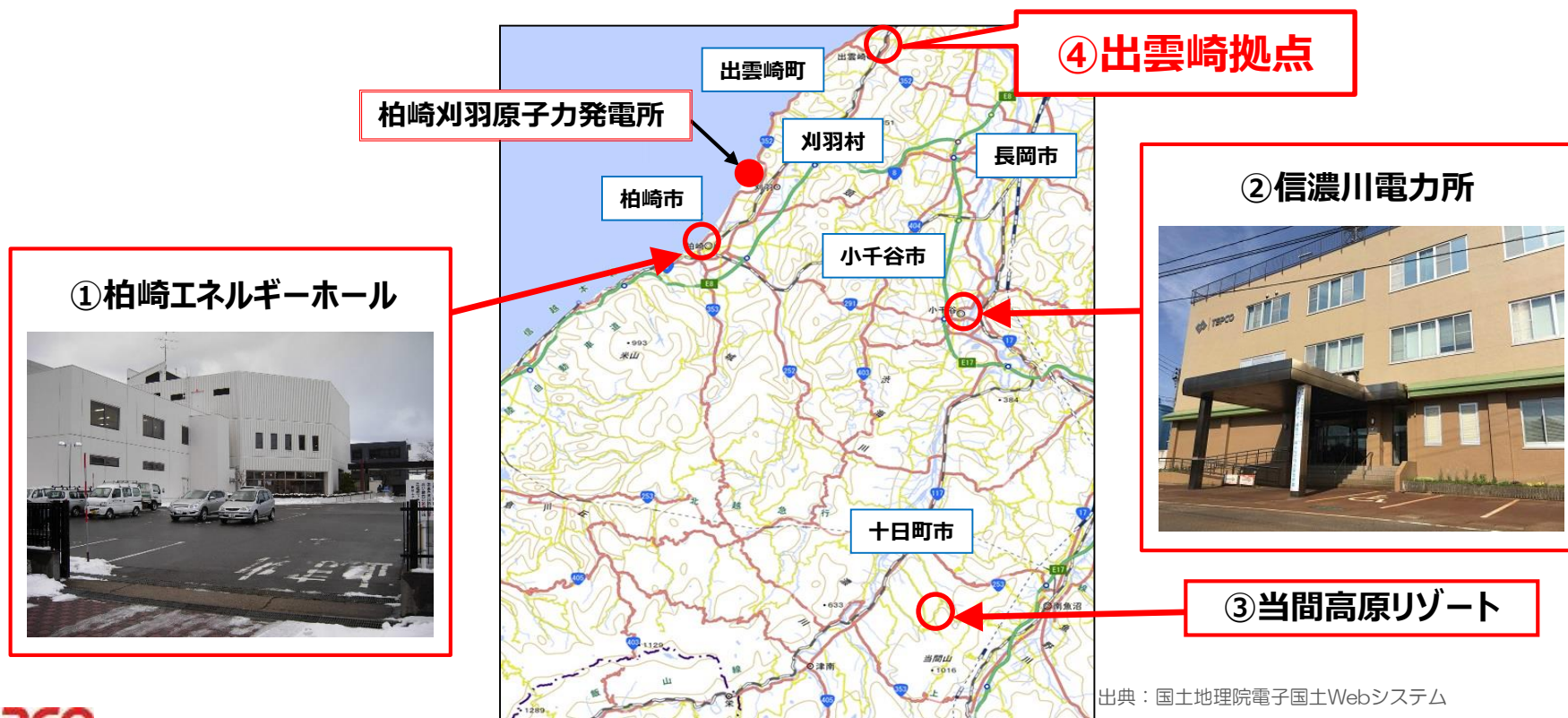
- 既存の除熱システムに加えて、圧力容器と格納容器内の除熱が可能な「新除熱システム」を開発し設置  
審査では、フィルタベントと同等以上の効果があり、ベントに優先して使用すべき設備として評価され、他のBWRプラントにも設置を義務付け
- 万が一のベントに備え、放射性物質の放出を大幅に低減するフィルタベント装置を設置



# 1. 安全性向上の取り組み

## ＜災害対策支援拠点の整備＞

- 原子力発電所の災害対策（事故の収束や拡大防止）を支援するため、必要な資機材を保管・調達し、発電所へ送り出したり、対応要員の往來を管理するための拠点
- 現在、当社では、柏崎エネルギーホール、信濃川電力所、当間高原リゾートの3拠点を整備
- 上記に加え、発電所から北東方向の出雲崎町にも支援拠点を整備し、多重化することで、支援活動の強化を図る（整備完了目標は2020年1月頃を予定）



出典：国土地理院電子国土Webシステム

## 2. 運営体制の構築の取り組み

### 概要

- 新潟本社の設置
- 原子力事業の社内カンパニー化を予定
- 新潟県知事の掲げる3つの検証へのご協力

### 主な取り組み

- 2015年4月、新潟本社設立
  - 県内全域における広聴・広報活動や原子力災害時の避難支援策の検討・実施
- 2018年3月、新潟本社行動計画を策定し、活動拠点として、柏崎市内に「まもる・そなえる・こたえる」オフィスを開設
- 2019年4月、新潟県のみなさまとのコミュニケーション活動をより強化していくため、柏崎市内のカムフィー2階に地域対応業務の拠点として新たにオフィスを開設
  - 「まもる・そなえる・こたえる」オフィスを拠点としていた地域対応要員の29名が、同オフィスへ移転。さらに、フリーアドレスを導入し、新潟本部や発電所内の地域活動要員も利用
  - 広聴活動で得られた地域の声を活かし、地元目線の取り組みを充実させていく

<まもる・そなえる・こたえるオフィス>



<カムフィー>



### <3つの検証へのご協力>

新潟県の皆さまの安全・安心のためにも、新潟県が進めている検証作業は重要なことであると考えており、最大限のご協力をさせていただきます

#### ■新潟県技術委員会へのご説明

○発電所視察を含め、これまでに35回実施

#### ■新潟県避難委員会へのご説明

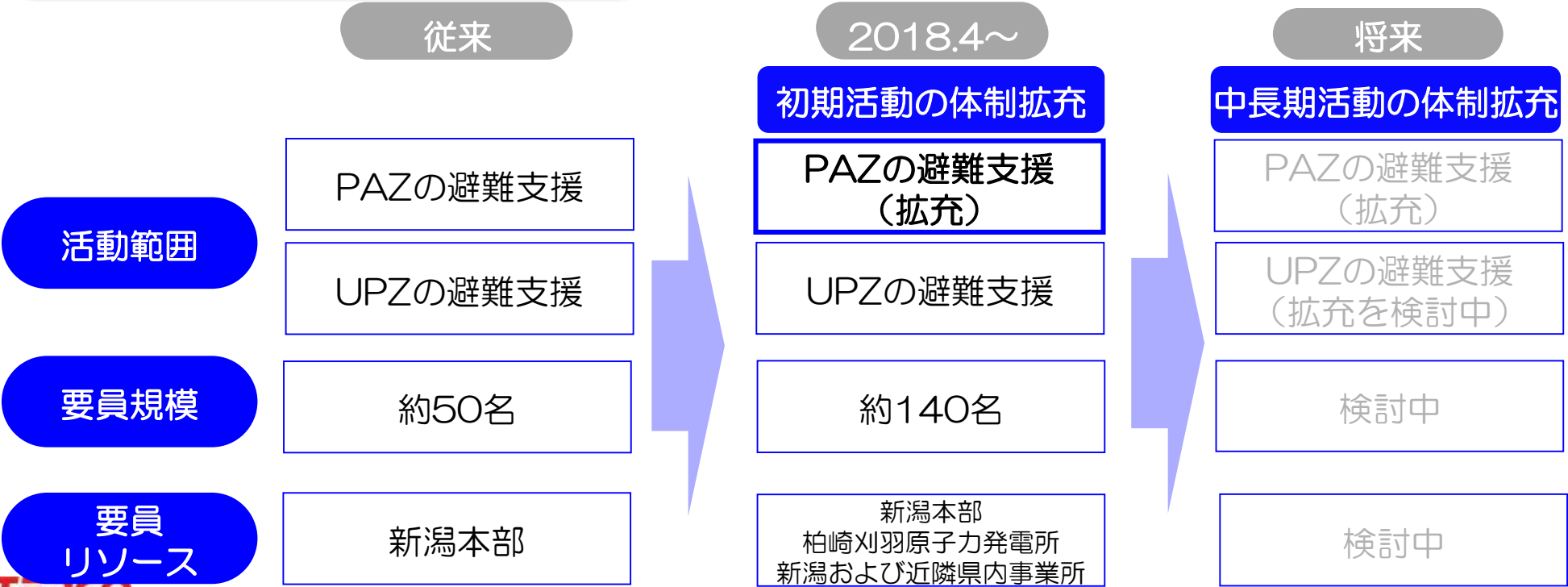
○発電所視察を含め、これまでに4回実施

- ・2019年6月4日 前回の避難委員会（2018/12/25）において委員からご指摘いただいた、「事故情報等の伝達体制」について書面で回答

### 3. 防災支援の取り組み 緊急時の初動体制（1 / 2）

- 「避難支援チーム」を、2018年4月1日から、新潟本部、柏崎刈羽原子力発電所、新潟県域および近隣県内事業所との協働体制を確立することにより、初動要員を約140名体制へと増員。また、防災や避難支援業務を専門とする社員14名が柏崎市内に常駐
- これにより、概ね5km圏内(PAZ)の避難支援を行う初期活動の体制を拡充
- 更に、概ね30km圏内(UPZ)の避難支援活動の体制の拡充についても検討中
- 新潟県が11月に予定している実動訓練に向けて、避難支援を行うための準備を進めていく

#### 「避難支援チーム」の増強（緊急時）

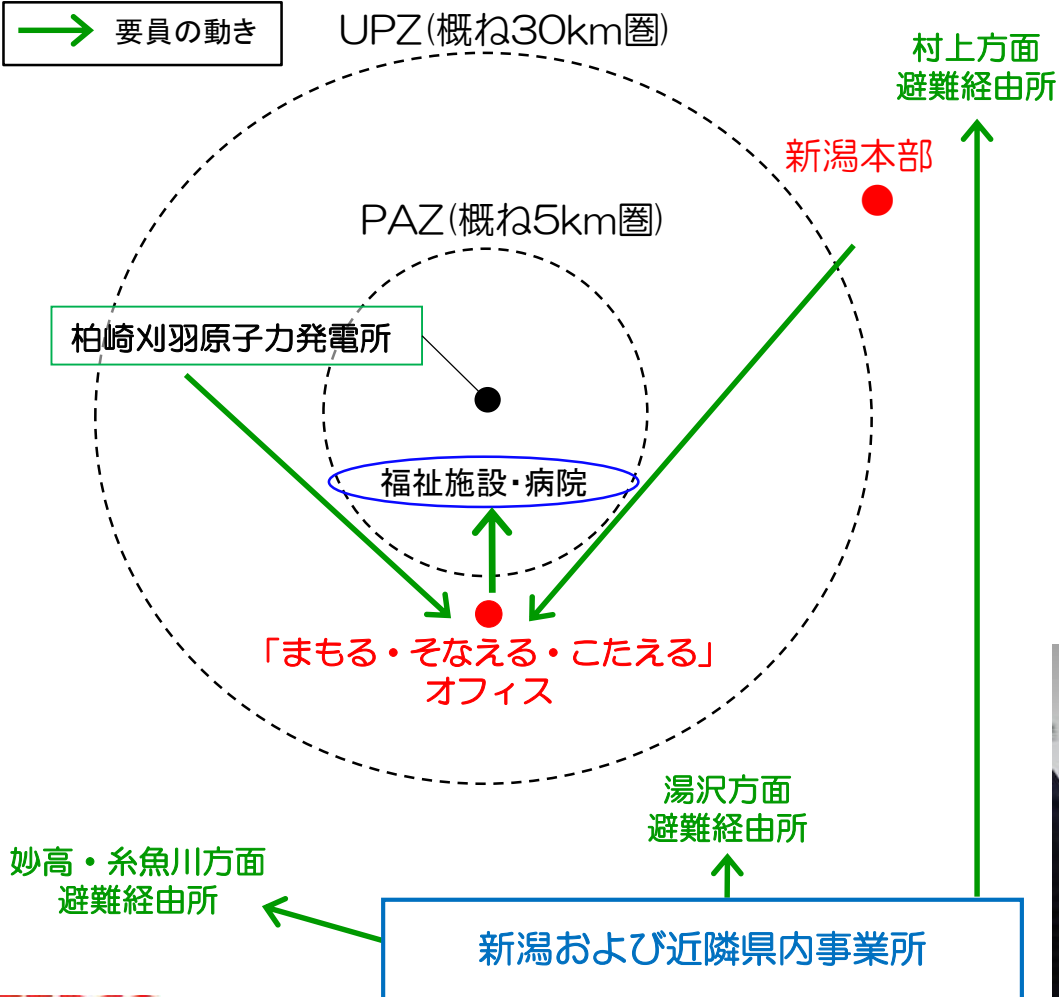




### 3. 防災支援の取り組み 緊急時の初動体制 (2/2)

#### 緊急時における初期活動(PAZの避難支援)の体制

- 約140名による初期活動の体制に拡充
- 今後、訓練を重ねてクイック&パワーアップを実現



	活動内容	要員 リソース
初期活動	①介護を必要とされる方々の 避難支援 (福祉車両・バス等の運転、移動 介助)	新潟本部、 柏崎刈羽 原子力発電所
	②福祉施設・病院 (屋内退避施設)の運営支援 (介護補助、物資補給)	
	③PAZ避難経由所の運営支援 (開設、案内・介助、車両誘導)	新潟および 近隣県内 事業所

<介護技術研修>



<福祉車両>



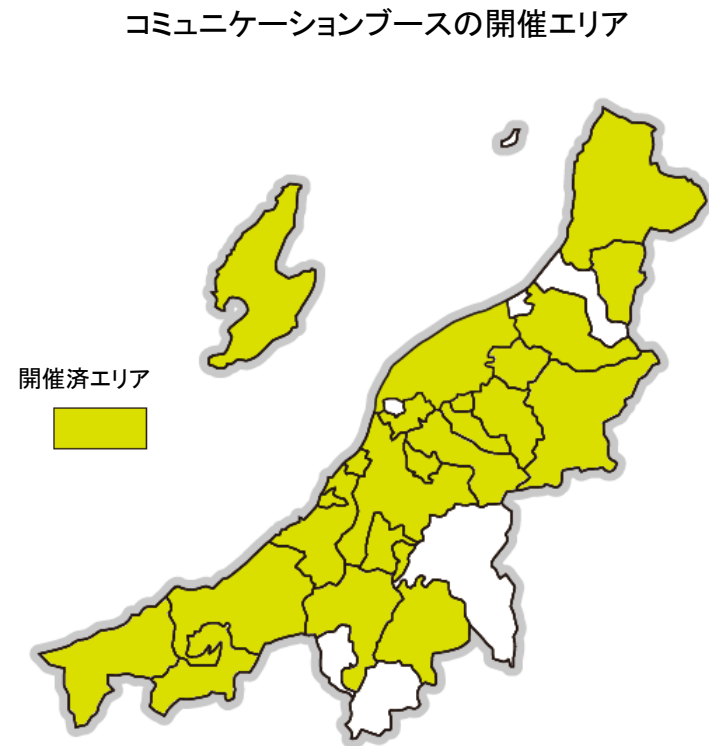
## 4. 地域貢献の取り組み 地域行事への参加

&lt;2019/3/20~6/5の実績&gt;

地域行事	実施日	作業内容	参加者数
JR東日本 サケ稚魚放流 (十日町市宮中地区)	3/23	放流お手伝い	5名
信濃川河岸段丘ウォーク	4/29	車両(監察車)による巡回	4名
柏崎夢の森公園森づくり活動	4/13	西の丘落ち葉かき作業、 シイタケ・ナメコのコマうち	1名
柏崎夢の森公園森づくり活動	4/27	カキツバタエリア内のヨシ刈り・草取り	3名
花いっぱい運動(刈羽商工会女性部)	5/16	花の植栽・落ち葉の片付け	1名
柏崎潮風マラソンボランティア	5/19	マラソン本部事務局、走路員、ゴール地点補助	21名
柏崎夢の森公園森づくり活動	5/25	草刈り	2名
刈羽村クリーン作戦	6/1	草取り、ゴミ拾い	6名

## 実施内容

- 新潟県内において「東京電力コミュニケーションブース」を設置し、県内のみなさまからの疑問やご意見をお聞きするとともに、柏崎刈羽原子力発電所の安全対策の取り組み等をわかりやすくご紹介しております。また、パネル展示等を通じて発電所で講じている安全対策や放射線など原子力発電全般に関する質問にお答えするとともに、さまざまな「声」をお聴きしております。



※2つの市町村を対象として「声」をお聴きしているブースがあるため、開催回数とグラフの合計値は異なります。

(2019年6月5日 現在)

- 東京電力コミュニケーションブースではパネルや模型の展示を通して、柏崎刈羽原子力発電所の安全対策等に対するご質問にお答えしております。また、VR（バーチャルリアリティ）を活用して、臨場感ある映像で発電所にいるような体験もしていただいております。
- これまでに57回開催し、累計11,990人の方にお越しいただき、多くの「声」をお聴きしました。

## <前回会見（2019/3/20）以降の実績>

開催エリア	開催場所	開催日	来場者数
阿賀野市	ウィンディ	5/16～5/20	205名
加茂市・田上町	にいつフードセンター加茂店	5/24～5/27	267名
糸魚川市	マックスバリュ糸魚川店	5/30～6/2	276名

<阿賀野ブース>



<加茂・田上ブース>



<糸魚川ブース>



- 5月に開催した阿賀野ブースでは、新たな取り組みとして、尾瀬コーナーを設置しました。
- パネルや尾瀬を象徴する風景のスクリーンを利用し、尾瀬の魅力をご紹介するとともに、原子力発電所以外での新潟県との関わりの一つとして、当社が尾瀬の自然保護に携わってきた歴史についても、来場者にご説明しました。

<阿賀野ブースの様子>



<尾瀬の自然保護活動を紹介>



<パネル展示>

### 尾瀬と東京電力の歴史

明治から大正にかけての時代は、人々の暮らしに電気が入り始めた頃で、その需要は急激に高まっており、当時発電の中心であった水力発電所の建設を進めることは国を挙げての課題でした。そこで、大正時代、当時の電力会社は尾瀬の豊富な水資源を活かそうと土地と権利を交渉し、昭和26年、東京電力設立時に引き継がれました。

昭和30年代前半までは、国策を担うのは高山植物の研究者や学生が中心でしたが、昭和30年代後半に入り、人々の生活にも余裕が訪れると、夏目ラジオや夏の思い出のヒットもあり、大勢のハイカーが尾瀬に押し寄せようになり、しかし、当時はまだ本道や公道トイレなどの自然を守る意識も低く、尾瀬の美しさに惹かれてやっていくハイカーの数が増えるにつれて、尾瀬の風景は自然は荒廃してしまいました。

東京電力は、尾瀬の美しい自然に国民的財産であると考え、昭和30年代から約半世紀にわたり、保護活動に取り組んでいます。

TEPCO

### 尾瀬と東京電力

最大かつ最も、特異な自然が残ることで知られる尾瀬。国立公園ならびに特別天然記念地に指定される日本の宝であると同時に、ラムサール条約に登録された世界の宝でもあります。

このような、日本が誇る「尾瀬」と東京電力は、どのような関係があるのか、不思議に思われる方も多くいらっしゃるかもしれません。実は、東京電力は尾瀬国立公園特別保護地区の約7割、全体の約4割を所有しているのです。東京電力は尾瀬の土地所有者として、長年誇りと責任を持って自然保護に取り組んでいます。

TEPCO

### 東京電力の自然保護活動

尾瀬の美しい国民的財産。東京電力はそう考え、土地所有者として長年尾瀬をまもる様々な取り組みを行っています。

#### ■ 緑をまもるために

- 木道を敷いています
- 種子落としマットを敷いています

#### ■ 水をまもるために

- 浄化槽を完備した公衆トイレを設置しています
- 空気を含ませるために
- 太陽光発電に取り替えています

TEPCO

## ◆ 阿賀野市、加茂市、糸魚川市で開催したコミュニケーションブースでいただいた声

声の分類	内容
尾瀬コーナー (阿賀野ブースのみ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京電力が尾瀬の保護に取り組んでいることは知らなかった。</li> <li>尾瀬の一部を東京電力が所有・管理していることは知らなかった。</li> <li>一度、尾瀬に行ってみたかったので話を聞いて良かった。</li> </ul>
安全対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>テロ対策はしっかりやって欲しい。</li> <li>津波対策を説明いただき、理解できて良かった。</li> </ul>
原子力発電全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>福島事故により福島県や近隣県にどれだけの迷惑をかけているのか、東京電力社員全員がしっかり理解するべき。</li> <li>福島事故を見てしまうと対策しても賛成はできない。</li> <li>今は電気が足りているので原子力発電は必要ない。</li> <li>柏崎刈羽原子力発電所は必要であるが、事故が起きた場合のことを考えると、どちらとも言えない。</li> <li>日本のエネルギー安定のために、なるべく早く再稼働出来れば良い。</li> <li>安全が確認できたら再稼働しても良い。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーションブースの取り組みは、県民にとっても良いこと。</li> </ul>

## 5. 傾聴と対話の取り組み ② 全戸訪問

- 新潟本社の社員が柏崎市、刈羽村の皆さまのお住まいを訪問させていただき、ご意見やご要望を傾聴する訪問活動を実施しました。
- 第4回目から、店舗兼住宅についても訪問対象とし、あらかじめ、週単位の訪問予定地域をお知らせした上で訪問しました。
- 引き続き、発電所がお世話になっている地域の皆さまの声をお聞かせいただく全戸訪問活動を展開してまいります。

### 訪問実績

- 第1回目 2015年6月～9月
- 第2回目 2016年5月～9月
- 第3回目 2017年5月～9月
- 第4回目 2018年8月～12月

### <訪問の様子>



### <訪問予定地域の周知チラシ>

柏崎市・刈羽村にお住まいの皆さまへ **atom**

町金後納  
タウンメール

#### 地域の皆さまへのご訪問について

当社では、発電所の状況等について、一人でも多くの地域の皆さまにご説明し、貴重なご意見をいただきたく、8月1日より柏崎市・刈羽村の各ご家庭を訪問させていただきます。

(8月～9月の訪問予定)

開始	終了	対象箇所 (五十首順)
8月1日 水	8月7日 火	柏崎市：青山町、荒浜、大湊、椎谷、松波、宮川、山本
8月8日 水	8月19日 日	刈羽村 (全て)
8月20日 月	8月26日 日	柏崎市：安政町、春日、北園町、小金町、桜木町、橋場町、原町、藤元町、北斗町、横原町、松美、藤田町、大和町
8月27日 月	9月2日 日	柏崎市：小島町、学校町、栄町、新花町、藤沢町、中央町、長浜町、東本町、比角、四谷
9月3日 月	9月9日 日	柏崎市：駅前、藤町、鏡町、幸町、新橋、空町、錦町、西本町、西港町、日石町、東港町、日吉町、豊町
9月10日 月	9月16日 日	柏崎市：赤坂町、大久保、寿町、新赤坂、東の輪町、常盤台、中浜、善神、三島町、三島西、霞町、藤橋町、米山台、米山台西、米山台東、客集町
9月17日 月(祝)	9月23日 日	柏崎市：岩上、北半田、鯉野、剣野町、下方、城東、関町、田中、南光町、枇杷島、種波町、宮場町、元城町、横山
9月24日 月(祝)	9月30日 日	柏崎市：朝日が丘、栗目、希望が丘、三和町、城塚、田塚、長崎町、半田、東長浜町、南半田、ゆりが丘

※天候等により、訪問日が変更になる場合がございますことを予めご了承ください。

## 5. 傾聴と対話の取り組み ③ 地域の皆さまへの説明会

- 柏崎市と刈羽村において、地域の皆さまからのご意見を伺い、発電所の状況や当社の取り組みをお伝えする貴重な場として「地域の皆さまへの説明会」を実施しております。

### 開催実績（新潟本社設立以降）

日時	場所	参加者数
2015/6/8	刈羽村生涯学習センター ラピカ	64名
2015/6/9	柏崎市産業文化会館	128名
2015/12/21	柏崎市産業文化会館	128名
2015/12/22	刈羽村農村環境改善センター	44名
2016/9/13	柏崎市市民プラザ	79名
2016/9/14	刈羽村 高町地区集会場	24名
2018/1/30	柏崎市産業文化会館	98名
2018/1/31	刈羽村生涯学習センター ラピカ	52名





## 5. 傾聴と対話の取り組み ④ トークサロン

- 柏崎刈羽原子力発電所の立地地域にお住まいの女性や子育てをされている方々を対象として、年間を通してトークサロンやカルチャー教室を実施しております。
- 発電所の取り組みをお伝えするとともに、立地地域の皆さまと新潟本社職員との対話活動を実施しております。

### 開催実績（2019年度）

時期	場所	主な内容	参加者数
2019.5	・ 柏崎エネルギーホール	・ トークサロン ・ カルチャー教室	23名

### 開催実績（2018年度）

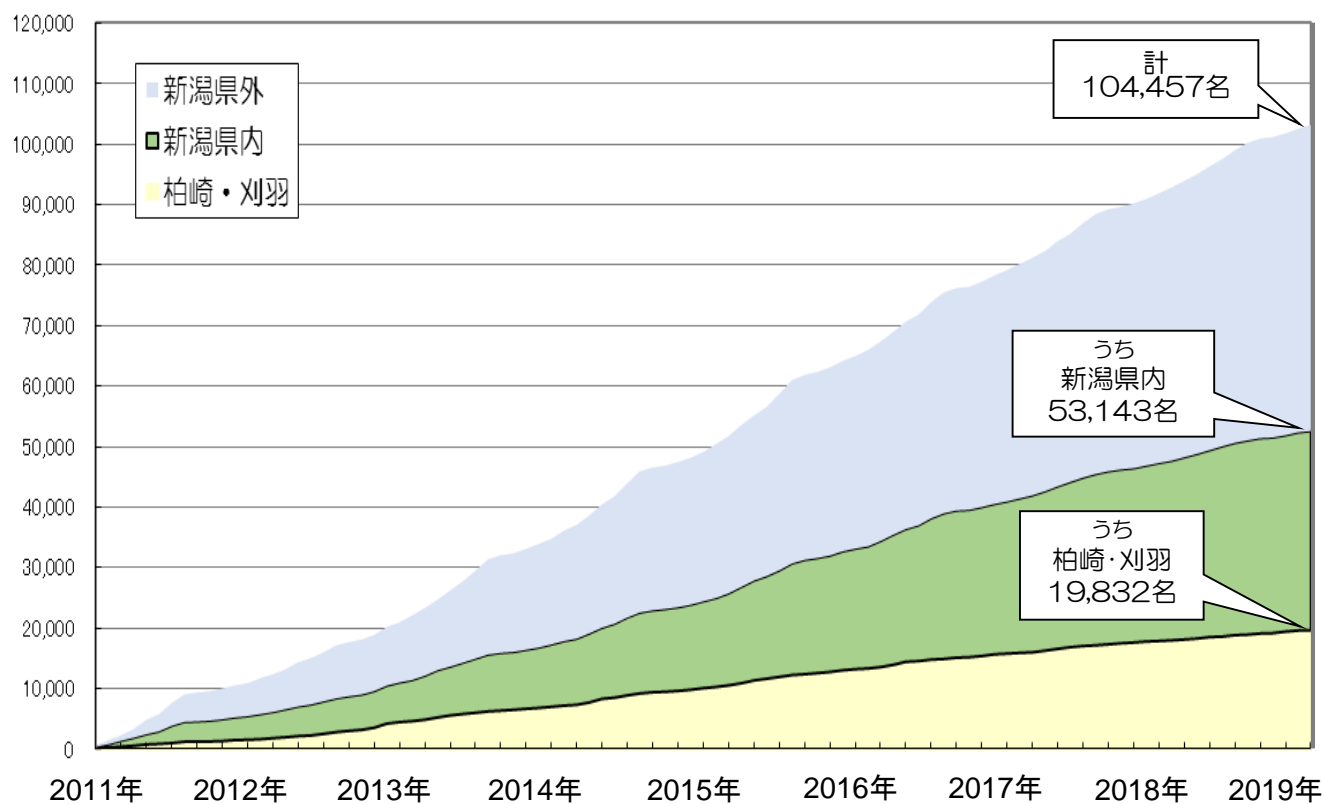
時期	場所	主な内容	参加者数
2018.4	・ 柏崎市市民プラザ	・ トークサロン ・ カルチャー教室	45名
2018.5	・ 柏崎エネルギーホール	・ トークサロン ・ カルチャー教室	47名
2018.7	・ 柏崎刈羽原子力発電所 （ビジターズハウス）	・ トークサロン ・ カルチャー教室	86名
2018.9	・ 柏崎エネルギーホール	・ トークサロン ・ カルチャー教室	22名
2018.9	・ 柏崎市市民プラザ	・ トークサロン ・ カルチャー教室	40名
2018.11	・ 柏崎エネルギーホール	・ トークサロン ・ カルチャー教室	24名



## 5. 傾聴と対話の取り組み ⑤ 発電所視察対応

- 新潟県内をはじめ、多くの皆さまに、福島第一原子力発電所の事故を踏まえ、取り組みを進めている柏崎刈羽原子力発電所の安全対策などをご視察いただいております。
- 2011年4月以降、これまでに累計10万人を超える方々にお越しいただきました。今後も、ご視察を通じ、安全対策などをご理解いただけるよう、取り組んでまいります。

### 発電所視察者数



### 【防潮堤（5～7号機側）】



### 【貯水池】



## 5. 傾聴と対話の取り組み ⑥ 広告

■ 福島第一原子力発電所事故の反省と教訓を踏まえ、柏崎刈羽原子力発電所で講じている安全対策や当社の取り組み等を、新潟県内の一人でも多くの皆さまにお伝えするため、各メディアを通じた広告を実施しております。

- ・新潟県内のテレビ各局、ラジオ各局において柏崎刈羽原子力発電所の安全対策等をお伝えするCMを放送中。
- ・3月下旬からコミュニケーションブースを紹介するCMを放送開始。
- ・日本や世界のエネルギー事情をお伝えする漫画広告を制作し、フリーペーパーへ掲載中。

<コミュニケーションブースを紹介するCM>



東京電力コミュニケーションブース  
in 阿賀野

入場無料

日にち: 5月16日(木)~5月20日(月)

場所: 阿賀野市 ウィンディ

ぜひ、お越しください。

TEPCO  
東京電力ホールディングス  
新潟本社

<エネルギー事情をお伝えする漫画広告>

